# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ


**所属**　臨床検査技術学科　　**職階**　准教授

**氏名**　水口真理子


麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。


1．教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
2．教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
3．教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
4．教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・毎年
5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6．学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7．指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
8．今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年

## 1．教育の責任　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年4月

臨床免疫学や臨床免疫学実習を主に担当している。免疫はヒトの生体内において、様々な疾患と密接に関連している。教育活動は、生体内での自己および非自己を区別する仕組みや、免疫が破綻することで引き起こされる疾患の仕組みを理解できる講義および実習を目指して行っている。

| 科目名 | 学科・専攻 | 単位種別 | 配当年次 | 受講者数(単位:人) |
|---|---|---|---|---|
| 免疫学 I | 臨床検査技術学科 | 必修 | 2 | 92 |
| 免疫学 II | 臨床検査技術学科 | 必修 | 3 | 105 |
| 免疫学実習 | 臨床検査技術学科 | 必修 | 3 | 104 |
| 臨床免疫学実習 | 臨床検査技術学科 | 必修 | 3 | 104 |
| 輸血・移植検査学・同演習 | 臨床検査技術学科 | 選択 | 4 | 96 |
| 総合臨床検査学II（分担） | 臨床検査技術学科 | 必修 | 3 | 105 |
| 総合臨床検査学III（分担） | 臨床検査技術学科 | 選択 | 4 | 99 |
| 総合臨床検査学演習（分担） | 臨床検査技術学科 | 選択 | 4 | 104 |
| 卒業論文 | 臨床検査技術学科 | 選択 | | 18 |
| 分子病態解析学特論（分担） | 環境保健科学専攻（博士前期課程） | 選択 | 1 | 3 |

## 2．教育の理念　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年4月

臨床検査技術学科は、臨床検査技師国家試験の合格を目指す。学ぶべき内容は、生命現象・疾患の成り立ちから、疾患に対する検査方法まで多岐に渡り、膨大である。大学の4年間という限られた時間の中で、自分なりの学修の仕方を身に付け、国家試験合格へ向けて粘り強く学びを積み重ねることができる人を育成したいと考えている。さらに、社会人となっても継続して学び続ける人となってほしい。また将来、臨床検査技師としてチーム医療の一員となるために、相手の立場を理解し、思いやりを持って行動できる人材を育成したい。
そのために臨床免疫学の講義や実習では、学生の興味や好奇心を刺激し、自ら学びを進めることの助けとなる資料や教材の作成に努めている。実習では、グループワークを通じて、他の班員と共同して実験を行い、実験結果について討論することにより、学生がコミュニケーション能力と科学的な洞察力を身につけることを目指している。

## 3．教育の方法　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年4月

・過去10年間の臨床検査技師国家試験の出題傾向を念頭に置き、重要なポイントをおさえた講義スライドを作成し、講義を行っている。また、スライドや資料は、講義内容を具体的にイメージしやすいよう、図表を豊富に用いている。講義後は、学生と会話しながら講義の分かりやすさやスライドの見やすさを確認し、教材を改善している。
・講義の終盤は、過去の国家試験問題を用いて確認テストを実施し、その後解説を行う。これにより、重要なポイントを改めて再確認し、知識の定着を図る。
・座学で学んだ専門知識と検査技術を体系的に理解できるように、実際に種々の検査法を実習している。その際、疾患の背景・検査方法・原理・検査の判定法をまとめた実習書を作成した。学生が実習書を見ながら、実験の背景を理解し、主体的に操作を行うための環境を整えている。
・専門知識と検査技術を結びつけ、理解を深めるためのワークシートを作成した。このワークを行うことにより、結果・結論および考察を論理的かつ簡潔にレポートとしてまとめる文章力とスキルを学生が身につけることをサポートする。このことは、臨床検査により得られる情報と疾患との関連性を正確に把握できる臨床検査技師の育成にもつながると考えている。
・実習中は、学生と対話しながら進行している。理解が不十分であると感じた部分は、実習中に参加者全員で共有し、確認・復習を行っている。
・実習はグループワークを行っている。班内でコミュニケーションを図ることで協調性を育む。
・全体を通して、答えを提示するのではなく、学生が自ら考え、調べるよう促す教材作りや助言を心がけている。

### （1）アクティブ・ラーニングについての取組　有

実習はグループワークを採用している。学生が主体的に、また他の学生と協調的に活動できるように促している。輸血・移植検査学・同演習ではチーム基盤型学習（TBL）を行った。事前に予備知識と課題が与え、個人とチーム単位の双方から課題を解決する。成果は、チーム単位でスライドにまとめ、発表会を行った。

### （2）ICTの教育活用　有

各講義の終盤には、学んだ知識を定着させるために、AzaMoodleを用いて確認テストを行っている。

## ４．教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

### （１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

過去の臨床検査技師国家試験の出題傾向を踏まえ、重要なポイントを整理した講義スライドを作成し、講義を実施している。また、座学で修得した専門知識および検査技術を体系的に理解できるよう、疾患の背景、検査方法、反応原理および判定法を整理した実習書を作成し、それに基づいて実習を行っている。

### （２）学生の理解度の把握

A

講義および実習における学生の理解度を把握するため、ワークシートを作成した。提出されたワークシートを添削することで学生の理解度を把握し、理解が不十分な点についてはコメントを付して理解を促した。

### （３）学生の自学自習を促す工夫

A

専門知識と検査技術を結び付け、理解を深めることを目的として実習書およびワークシートを作成した。学生が検査の原理およびその応用について自学自習できるよう、思考を促す問いを設定した。

### （４）学生とのコミュニケーション

A

講義後や実習中に不明点が生じた場合には、その場で質問するよう学生に促し、個別または全体への補足説明を行うなどして適切に対応した。また、学生の発言を妨げない雰囲気づくりや声かけを行い、質問しやすい学修環境の形成に努めた。

### （５）双方向授業への工夫

A

実習は双方向型授業の形式を採用した。実習内容の背景、具体的な手順および結果の解釈を分かりやすく整理した実習書に加え、実習の原理や解釈に対する理解を深めるためのワークシートを作成した。これらを活用し、教員と学生が適宜質疑応答を行うなど、双方向のコミュニケーションを取りながら実習を進めた。

### （6）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

臨床免疫学（M3）では、定期試験においてオリジナルの国家試験類似問題を作成し、学生が出題傾向を把握できるよう工夫している。総合臨床検査学演習（M4）では、臨床免疫学分野の過去の国家試験問題、模擬試験の解説、およびオリジナル問題の作成に取り組んだ。あわせて、問われている知識の基礎や背景を含めた解説スライドを作成し、AzaMoodleに掲示している。なお、学生からの質問には随時対応した。

## 5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

**対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月**

### （1）授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価アンケートにおいて、講義資料の見やすさについて高い評価を得た。本年度は、講義資料に最新の情報を追加するとともに、より分かりやすい内容となるよう更新を行った。

### （2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

臨床免疫学を苦手と感じている学生に対しても理解が進むよう、講義内容や教材の工夫を重ね、苦手意識の軽減を図ることが今後の課題である。

### （3）（2）を踏まえた次年度の取組

次年度も、講義資料に最新の情報を追加するとともに、より分かりやすい内容となるよう更新を行う。

## 6．学生の学修成果向上を図る取組

**対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月**

### （1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学生の成績向上を目的として、重要なポイントを整理した独自の講義スライドを用いて講義を実施した。また、専門知識と検査技術を結び付けて理解を深められるよう、実習書およびワークシートを作成した。

### （２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生の授業評価アンケートより「講義資料が読みやすく重要点がまとめられていた」、「ちゃんと国試と照らし合わせられた資料でよかった」、「小テストの解説が丁寧だった」等、評価を受けた。

## ７．指導力向上のための取組（FD研修参加等）

**対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年4月**

FD研修へ積極的に参加した。参加できなかった場合は、録画を視聴した。

## ８．今後の目標

**対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年4月**

今後は、Project Based Learning（PBL）を実施し、チームで課題に取り組む。受身の講義ではなく、学生が自ら問題を見つけ、解決する過程をプレゼンテーションで発表する機会を設ける。課題を整理し、誰にでも分かりやすく伝えられる発表スキルを習得できるような取り組みを進めていきたい。長期目標は、学生が主体的に考え、相手の立場を理解し、思いやりを持って行動することを習慣化できる教育環境を構築することである。

## ９．ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

**対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年4月**

シラバス、講義スライド、実習書、ワークシート、確認テスト